

# 振興会長等研修会 丸森町筆甫地区に学ぶ

～地域存続のために何でもやる～

1月26日(木)、令和4年度第2回奥州地域会議地区振興会長等研修会が、江刺総合支所多目的ホールにおいて開催されました。当日は、市内30地区から振興会役員49名の参加がありました。

第1部が事例発表、第2部が意見交換会という形式で行われました。

第1部では、宮城県丸森町一般社団法人筆甫(ひつぽ)地区振興連絡協議会事務局長である吉澤武志氏より、「地域資源を生かした地域づく

# 振興会だより

令和5年2月21日発行  
編集・発行 振興会  
羽田地区センター



吉澤武志事務局長が「地域存続」の取り組みを熱く語っています

何もしなければ地域崩壊必然の地域であることを住民が共有し、草刈りや移動販売車による買い物対策をはじめ、特産品開発から販売までします。また、産直、ガソリンスタンド、デイサービス事業経営まで幅広い事業を行い、地域がまるごと会社と化し、持続可能な地域づくりを目指しているところでした。

振興連絡協議会部会の中に、移住

り」と題して、地区の課題と住民ニーズに対する具体的な取り組み事例が紹介されました。

筆甫地区は高齢化率59・07%で、自分たちが

振興会は、例年、2月に理事・代議員会を開催し、総会提出案件について審議してきました。しかし、コロナ感染症の拡大に伴い、ここ2年間開催せず、総会提出案件を送付しご意見を頂いてきたところです。

先の執行委員会において、今回も前回同様、総括という形で理事・代議員の皆様へ提示し、ご意見を頂くこととしました。従って、一堂に会し、会長から任期2年間の活動に対するご慰労を申し上げる機会がなくなりますのでご理解願います。

## 【開催せず】 振興会理事会・代議員会

推進部会があり、時代を先取りした様々な取り組みを行っていることから、是非一度は研修に訪れてみたいと思わせる発表内容でした。

第2部では、奥州市から小さな拠点づくりモデル事業について説明がありました。この事業は、市が過疎化が著しい地域を「小さな拠点」モデル地区として選定し、効果を検証し、効果が大きいものについては他地域へ横展開を図ることを目的とし実施されるものです。市は、衣川の4地区を令和4年度から3年間モデル地区とし、令和5年度は、オンラ

## 羽田地区各自治会総会 対面総会6、書面議決6

羽田地区の12自治会は、令和5年1月から2月末にかけて、それぞれ自治会総会を開催しました。(2月26日開催が3自治会)

書面での議決は、羽田中央、田茂山、川前、森、東町、御山下の6自治会です。全自治会員参加による対面での総会は、羽黒堂、芦ヶ沢、北鶴ノ木、外浦、黒田助、鶴ノ木の6自治会です。

総会後の懇親会は、鶴ノ木自治会で行われ、北鶴ノ木自治会も行われる予定です。

イン診療を実施し、地区センター等で受診できる「モバイルクリニック事業」、民生委員の負担軽減と委員活動の強化を図る「民生委員ICT活用事業」、地域振興を図る「地域おこし協力隊運営事業」に取り組むことの説明がありました。

意見交換では「地区センターを拠点とした診療は分かるが、足のある人は直接病院へ行く。ない人は地区センターへも来れない実情がある」等の意見や「地区センター職員の人材育成や処遇改善に関する市の見解」を問う質問がなされました。

### 羽田地区の「地域防災」 取り組みが紹介される

水沢総合支所ロビーに掲示  
2月24日(金)～3月1日(水)

昨年度、羽田地区振興会は、奥州市危機管理課より、奥州市防災セミナーにおいて事例発表を依頼されました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止となりました。

そこで、市は、各総合支所に昨年度未発表となった羽田地区の取り組みを掲示することとしました。

掲示内容は、「羽田地区における防災体制」と題し、過去の歴史から羽田地区は災害と対峙しなければならぬ地区であること、そのために、講師を招聘し防災学習会を開催していること、そのうえで、4年に一度の総合防災訓練を行っていること、防災訓練の内容は「まず避難所に一度は足を運ぼう」という目標を設定し、レベル3発令想定のもと、要支援者の安否確認と避難誘導を行っていること、参加者は、非常食、防災グッズ等の見学、防災士会、婦人消防協力会等の団体による体験活動に参加したこと、最終的には、総合防災訓練には500名を超える参加者があり所期の目的が果たされたこと、などです。

## 胆 江 日 新 聞

2023年(令和5年)1月24日(火曜日)第26678号 第2社会面 6

### 小谷木橋東側交差点

# 信号機 来年度設置へ

## 地元「県内一危険」解消願う

「県内一危険」とも言われている水沢羽田町の国道397号十字路交差点に、来年度中にも信号機が新設される見通しがあることが、奥州署や地元関係者への取材で分かった。地元関係者は信号機設置を歓迎するともに、今月も事故が発生していることから、一刻も早い実現と危険解消に期待を寄せている。

(児玉直人)

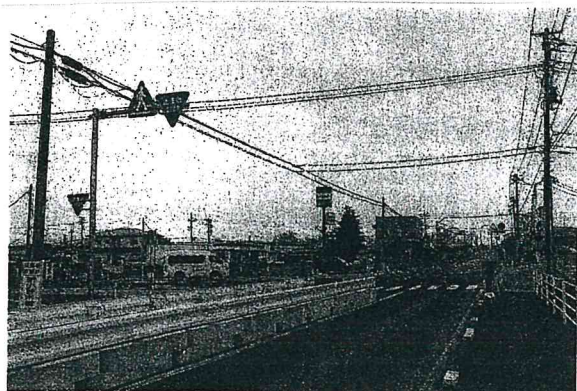
なかつたが、その後発生したという。

一般社団法人日本損害保険協会は、21年の人身事故件数5万件が盛岡市の高松交差点と並び、県内ワーストの交差点になったと公表。「県内で最も危険な交差点」と位置付けた。

奥州署によると、橋が開通する前の20年は人身事故、物損事故が各1件だったが、開通初年の21年は人身事故5件、物損事故が7件に急増。昨年は7月末時点で物損事故が6件発生した。人身事故は7月末までは起きていたという。

という。

が、信号機設置の予定という話を聞き安堵の思いで、心配し続けてきた地域の皆さんにも伝えたい。とはいえず、設置するまでなかなか安心できないので、できるだけ早く設置してもらいたい」と話している。



来年度中の信号機設置の見通しが立った小谷木橋東側の交差点＝水沢羽田町字中袋地内